

自分のことは自分で？

「自分のことは自分でできてほしい。自分で支度をして、時間までに自分で家を出てほしい。」と願うのは、どの親も同じです。でも実際は、朝の時間がない時、子どもが自分でやらない、でも時間がなくなってしまうので、親が手伝ってしまいます。その上、「自分でやらないといけないでしょう、あなたのためにやっているのだよ。ちゃんと自分のことは自分でやりなさい。時間が決まっているのだから、それまでに準備できるように。」とたくさんの小言を浴びせてしまいます。

発達心理学では、親が手伝ってあげた方が自立できるということが常識になってきています。叱ったり、否定する言葉を浴びせたりすると、自己肯定感が低くなり、親子関係が悪くなります。逆に、一緒にやってあげる、できない場合は、全部やってあげる、否定的な言葉や小言を言わずに楽しく手伝ってあげると、できるようになってきます。

あるこども園でのこと、1組では、担任の先生が、できないときには楽しくやってあげるようにしていました。そのことを続けていたら、その年の後半には、ボタンを自分ではめることができなかつた子のはめられるようになったり、靴下をなかなか自分で履けなかつた子が自分で履けるようになったりすることがたくさん増えました。

2組では、担任の先生が、できない子を叱って、手伝うことをしませんでした。その年の後半になっても、できないことは変わらず、成長は見られなかつたということです。

では、なぜやってあげた方がいいのでしょうか。2組のように、できないことを叱られると自己肯定感が低くなってしまいます。僕なんかダメな子だからできるわけないと、最初からやってみようとしなくなってしまう。また、担任の先生との関係が悪くなり、先生のことを嫌いになってしまいます。1組は、叱られることがなく、先生は褒め上手で、先生のことを大好きになります。そうすると、先生に褒められたいので、先生は今こうしてほしいんだと先生の願っていることが分かるようになります。できないことに挑戦してできなくても、手伝ってもらえる、だからまた挑戦するようになります。先生と子どもの人間関係がよくなります。

親と子、先生と子ども信頼関係ができると、その後の人生で、すべての人間関係がよくなり、他者信頼感が育ちます。自分が困っている時に手伝ってもらって助かってうれしかった経験が、他の人が困っていると自分が助けてあげたいと思う子に育ちます。逆に、自分が困っている時に助けてもらえない経験を積み重ねた子は、困っている人がいても、その人のためにならないからと、助けてあげない人になります。